

創立140年に向けて

理事長 日高義博

ひだか よしひろ 1948年宮崎県生まれ。70年専修大学法学部卒業。75年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年専修大学法学部講師、その後、助教授、84年に教授。88年法学博士。法学部長(2001～04年)、専修大学長(2004～13年)などを歴任。04年より法科大学院教授。06年より学校法人専修大学理事長。趣味の居合は5段の腕前。



育友会の皆様には、日頃から専修大学の運営に対してご支援・ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

昨年11月の役員改選により理事長に再任されました。4期目に入りましたが、その職務の重さを一層実感しております。現在の大きな課題は、創立150年を視野に入れて、大学の人的・物的基盤を再構築することです。課題を段階的に解決すべく、鋭意尽力してまいりますので、皆様の力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

専修大学は、今年9月で創立137年を迎えます。現在、創立140年に向けて様々な取組みを推進しております。東日本大震災では校舎等が損傷し、大きな損害を被りましたが、現在、震災後に策定したキャンパス整備計画に従って、着々と新校舎建設を進めております。生田キャンパスでは、昨年7月から生田キャンパスの新たな“知の発信”拠点となる「生田新2・3号館（仮称）」の新築工事が始まっております。新2号館は、学生のアクティブ・ラーニングを促進する施設（地下1階地上2階建て）であり、新3号館は、大学院棟等の校舎（地上7階建て）となります。新校舎は、今年度中に完成し、来年度か

らの利用開始を予定しています。生田新2・3号館が竣工しますと、震災後の生田キャンパス整備計画はほぼ達成することになります。

一方、神田キャンパスでは、新5号館が利用に供されていますが、現在の大きな課題は、靖国通り新校舎の活用です。靖国通り新校地にどのような学部・学科を展開するのか検討してまいりましたが、国際系の学部を新設し、加えて商学部を生田から神田に移設する予定です。具体的な実施策については鋭意検討を重ねているところであります。具体的な実施策が決定致しましたら、順次お知らせしたいと思っております。

大学の進展には“オール専修”の力の結束が必要です。本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を促進するには、学生・教職員だけでなく、育友会ならびに校友会の皆様も共に大学の活動の輪の中に入っていただくことが必要です。育友会と校友会は、大学運営を支える両輪ともいえるべき存在です。育友会の皆様もオール専修の一員として「社会知性の開発」に向け、共にご尽力いただくことを期待しております。